

北軽井沢の山荘の庭に、ふと現れた一匹のキツネです。1月とは思えないほど雪が少ないこの冬、地面一面にはカラマツの落ち葉が広がり、その上をキツネがゆっくりと歩いています。歩調は落ち着いていて、警戒しながらも、どこか散歩を楽しんでいるように見えます。

よく見ると、その毛色は赤褐色から灰褐色へと自然に移ろい、落ち葉や土の色と見事に溶け込んでいます。まさに冬の森に適応した保護色で、じつとしていれば、近くにいても見逃してしまいそうです。冬毛は夏よりも密で、体を大きく見せる効果もあり、寒さをしのぐと同時に、外敵から身を守る役割も果たしています。

餌が乏しくなるこの時期、キツネは何を探しに来たのでしょうか。雪が少ない年は、落ち葉の下に潜むネズミ類や昆虫の幼虫、あるいは人の生活圏に近い場所で得られる小さな食べ残しなども、重要な栄養源になります。鋭い嗅覚で地面のわずかな気配を感じ取り、慎重に行動している様子がうかがえます。

この個体がオスなのかメスなのかは、写真からは判断できません。ただ、冬の間は単独で行動することが多く、繁殖期を前に体力を蓄える大切な時期です。やがて春になると、山荘の周辺でも、子ギツネを連れて歩く微笑ましい姿が見られるようになります。

この写真は、東京から遠隔で設置したカメラによって撮影されました。人の気配がないからこそ記録できた、冬の静かな時間と、厳しい季節を生き抜くキツネの日常を少しだけ見ることができました。

